

平成 29 年度 学校経営計画及び自己評価

1 めざす学校像

「人間教育をする進学校」

本校は創立 108 周年を迎えた。建学の精神「報恩感謝」を柱とした宗教的情操教育の良き伝統を堅持し、男女を問わず、周囲に感謝して生きる喜びを感じ、何事に対しても前向きに取り組むことができる、そしてグローバル化する社会で活躍、貢献できる「品格と礼節」を備えた生徒を育成する。

- ① 建学の精神の涵養 ー宗教的情操教育を堅持し、我国の伝統と文化に基づく「品格と礼節」を備えた人間を育成する学校ー
- ② 安心安全な学校づくり ー学校は、生徒たちが安心して夢を実現するための準備をする安心安全な学校ー
- ③ 確かな人間力の育成 ー高い志を培うとともに生徒の進路希望を実現する学校ー
- ④ さらなる特色づくり ー各コースの教育内容のさらなる充実を図り、生徒・保護者に期待される学校ー

2 中期的目標

1 建学の精神の涵養 ー宗教的情操教育を堅持し、我国の伝統と文化に基づく「品格と礼節」を備えた人間を育成する学校ー

- (1) 宗教行事や宗教の授業において、建学の精神を理解させる
- (2) 日々の朝礼・終礼、講堂朝礼を徹底し、東大谷生としての自覚、感謝のこころを育む
- (3) 花まつり、報恩講、了秀忌等の宗教行事だけでなく、すべての学校教育を通して建学の精神「報恩感謝」の念を育む
- (4) 全教職員に対して本校の宗教的情操教育のあり方を常に確認・共有し、全教員一致して教育にあたる

2 安心安全な学校づくり ー学校は、生徒たちが安心して夢を実現するための準備をする安心安全な学校ー

- (1) 防災対策・危機管理体制を整え、生徒が常に考え行動できる指導を徹底する
- (2) 伝統の生活指導を徹底し、グローバル化する社会に必要なマナーを身につけさせる
- (3) 教育相談体制、メンタルサポート体制を充実させるとともに、生徒の個性に応じた身体と心の健康づくりを進め、安心・安全な学校づくりを推進する
- (4) 家庭への情報発信を密に行い、学校・家庭が一体となった教育を徹底する
- (5) 地域の幼・小・中学校、自治会等との連携をすすめ、地域とともに生徒の成長を育む教育を推進する

3 確かな人間力の育成 ー高い志を培うとともに生徒の進路希望を実現する学校ー

- (1) 生徒が主体的に学ぶことができる授業改革を進め、高い志を育むとともに、「人間教育をする進学校」という評価を定着させる
- (2) 本校独自の取り組みである「学びの NEW STYLE」の充実と教員の授業力の向上をはかる
- (3) グローバル化が進む社会で活躍する人間の育成のために、授業における ICT 機器の活用を図り、国際理解教育を推進する
- (4) 教職員の授業力の向上を最重要課題とし、公開授業、研究授業のほか時機を得た適切な研修を取り入れる
- (5) 生徒会活動・学校行事や部活動を通して、仲間とともに創造する喜びと困難を乗り越える力、リーダーシップを育む

4 さらなる特色づくり ー各コースの教育内容のさらなる充実を図り、生徒・保護者に期待される学校ー

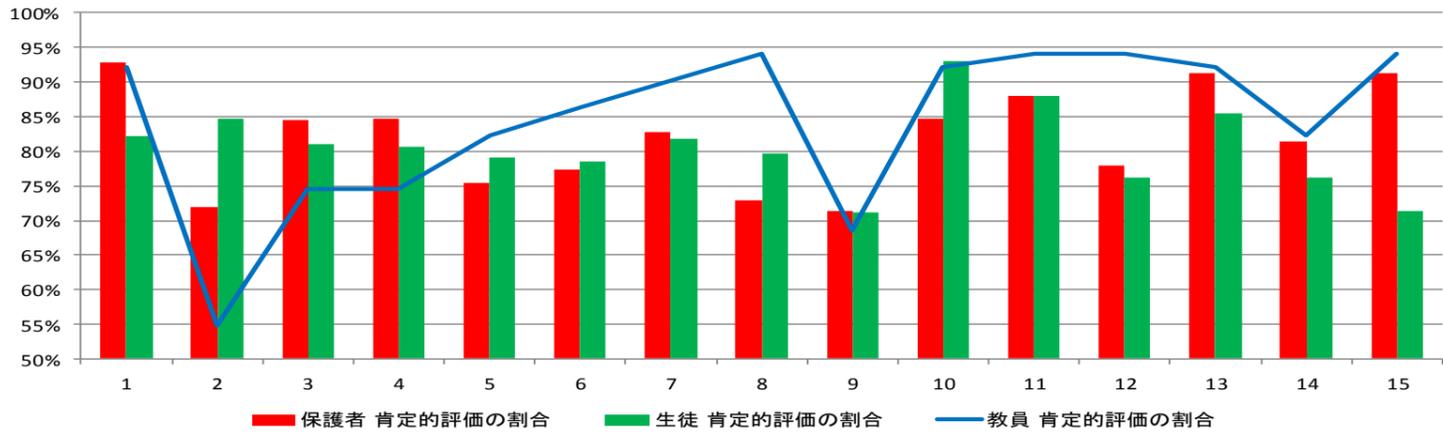
- (1) 大阪大谷大学との高大連携をすすめ高大一貫の教育をめざし、大学卒業までを見据えて生徒自らが意欲を持って学習できる体制を作る
- (2) オーストラリア海外語学研修や短期長期留学制度を充実させ、積極的な国際交流を図る。豊かな語学力に裏付けられた国際感覚を育成できる体制を作り、生徒・保護者に期待される学校として情報発信を行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会における提言内容】

学校教育自己診断の結果と分析[平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会における提言内容
<p>保護者からは全項目でほぼ昨年並みの評価、「建学の精神」「学校行事」「総合的評価」では 90%を超える評価となったが、昨年同様「情報公開」「教員の指導工夫」「生徒の自ら学ぶ習慣」については 70%前半と低い評価であった。学校での配付物等が家庭に届かない可能性もあり、ホームページの充実等により、学校からの情報をいつでも入手できることを保護者に周知する必要がある。</p> <p>生徒からは、すべての項目において前回は上回る結果を得たが、「自ら学ぶ習慣」「学校満足感」では肯定評価が 70%前半と厳しい評価となった。</p> <p>教員からは食堂周りの警備システム設置により前回低評価であった「安全管理」の評価がひときわ高くなったが、逆に「保護者への情報公開」で低い評価となった。</p> <p>学年別にみると、保護者生徒とも昨年同様 2 年生の評価が低くなっている。次年度は特に 2 年生を大切な学年と位置づけ生徒にも「なかだるみ」ではなく「学校に慣れ、また受験のプレッシャーも少ない充実できる学年」の意識を持たせる必要がある。</p> <p>総合評価としての設問 15 は「入学してよかった」の評価が保護者と生徒で大きく乖離していることは昨年より改善できなかった。本校の特質である厳しい生活指導等が、「卒業して良さのわかる学校」に由来する部分も皆無ではないが、それに代わる充実感を生徒に持たせるよう対策を講じなければならない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己診断の「生徒の自ら学ぶ習慣」の評価が生徒保護者ともに低い。東大谷には「探究ゼミ」「10 年未来プロジェクト」「宗教」等の積み上げがあり、独自のアクティブラーニングを行う環境ができています。カリキュラムを整えれば有効なものとなる。その手法を各教科でどのように活かしていくかでこの設問の評価は変わる。 ・知識量をそのままに学力の 3 要素を育てる時間を確保するためには ICT 機器を用いた授業の効率化が必要となる。 ・自己診断の「悩みに対する対応」では教員の高評価に対して生徒保護者が低評価。教員側に受入の意識はあるものの生徒が相談に行っていない現状があるのではないかと。 ・授業アンケートでは「教員の熱意」と「生徒の満足度」の評価に乖離が見られる。教員が一方的に満足するに留まっていないか。常に理解させ定着させることを目標に自分の授業を客観視することが大切である。

2017年度 学校教育自己診断 結果

	設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
保護者	そう思う	298	149	216	242	167	159	212	121	166	222	259	196	309	211	326
	多少そう思う	248	272	280	257	276	291	271	298	254	273	257	258	229	256	211
	あまりそう思わない	35	138	76	72	127	116	87	133	126	76	56	103	40	79	36
	そう思わない	7	27	15	18	17	16	13	23	43	14	15	26	12	27	15
	肯定的評価の割合	92.9%	71.8%	84.5%	84.7%	75.5%	77.3%	82.8%	72.9%	71.3%	84.6%	87.9%	77.9%	91.2%	81.5%	91.3%
(昨年度)	93.4%	72.4%	83.6%	86.1%	76.9%	78.0%	85.5%	72.3%	70.4%	85.2%	88.5%	79.6%	92.8%	80.7%	92.2%	
生徒	そう思う	234	321	238	247	234	224	222	202	183	357	318	223	306	248	199
	多少そう思う	336	266	322	311	314	317	342	348	308	287	292	303	285	272	295
	あまりそう思わない	83	69	87	91	95	99	94	103	141	28	53	113	68	91	130
	そう思わない	40	37	45	43	50	49	32	38	58	20	30	52	33	71	68
	肯定的評価の割合	82.3%	84.7%	80.9%	80.6%	79.1%	78.5%	81.7%	79.6%	71.2%	93.1%	88.0%	76.1%	85.4%	76.2%	71.4%
(昨年度)	79.5%	84.8%	71.5%	76.0%	75.3%	74.3%	79.0%	75.8%	69.4%	90.1%	84.3%	72.2%	85.3%	74.8%	69.5%	
教員	そう思う	19	10	10	9	15	20	5	9	4	15	19	19	14	14	11
	多少そう思う	28	18	28	29	27	24	41	39	31	32	29	29	33	28	37
	あまりそう思わない	4	22	13	11	9	7	5	3	16	4	3	3	4	8	3
	そう思わない		1		2										1	
	肯定的評価の割合	92.2%	54.9%	74.5%	74.5%	82.4%	86.3%	90.2%	94.1%	68.6%	92.2%	94.1%	94.1%	92.2%	82.4%	94.1%
(昨年度)	91.5%	63.8%	55.3%	70.2%	83.0%	89.4%	87.2%	91.5%	61.7%	78.7%	89.4%	91.5%	87.2%	76.6%	87.2%	



学校評価アンケート設問

	教員	保護者	生徒
設問1 学校運営	建学の精神に基づいた特色ある教育が行われている	学校は建学の精神に基づいた特色ある教育を行っている	学校は建学の精神に基づいた特色ある教育を行っている
設問2 学校運営	保護者への情報公開は適切でよく連携が取れている	学校からの情報公開は適切でよく連携が取れている	学校からの情報や資料は保護者に見せている
設問3 学校運営	防犯、防災、安全管理への対策が十分整っている	学校は危機管理や安全対策に努めている	学校はさまざまな安全対策をとっている
設問4 進路指導	各自の進路希望に応じた科目選択ができる	子ども自身の進路希望に応じた科目選択ができる	自分の進路希望に応じた科目選択ができる
設問5 進路指導	進路に関するきめ細やかな指導が行われている	学校は進路に関するきめ細やかな指導を行っている	進路に関するきめ細やかな指導が行われている
設問6 進路指導	進路に関する十分な情報を提供している	学校は進路に関する十分な情報を提供している	進路に関する情報は十分に知らされている
設問7 学習指導	生徒は熱心に授業を受けている	子どもは熱心に授業を受けている	授業中は集中することができている
設問8 学習指導	授業の指導方法や内容に工夫をしている	授業の指導方法や内容に工夫がなされている	先生は授業の指導方法や内容に工夫をしている
設問9 学習指導	生徒に自ら学ぶ習慣を身につけさせている	子どもは自ら学ぶ習慣が身につけてきた	積極的に学ぶ習慣が身につけてきた
設問10 生活指導	基本的な生活習慣が身につく生活指導が行われている	基本的な生活習慣が身につく生活指導が行われている	挨拶や礼儀、登下校時のマナーなどをきちんとしている
設問11 生活指導	生徒間の好ましい人間関係の構築に努めている	生徒間に好ましい人間関係が構築されている	生徒どうしの人間関係は良好である
設問12 生活指導	生徒の悩みや問題に対して丁寧に対応している	子どもの悩みや問題に対して丁寧に対応している	先生は生徒の悩みや問題に対して丁寧に対応している
設問13 特別活動	学校行事に積極的に取り組ませている	子どもは学校行事に積極的に取り組んでいる	学校行事に積極的に取り組んでいる
設問14 特別活動	部活動の指導には熱意をもってあたっている	教員は部活動の指導には熱意をもって当たっている	部活動の指導では先生の熱意を感じる
設問15 総合評価	生徒は充実した学校生活を送っている	子どもを本校に入学させてよかった	本校に入学してよかった

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 建学の精神の涵養	(1)宗教的情操教育による豊かな人間性の涵養 (2)伝統の継承	①宗教担当教員と担任が密に協力して、朝・終礼、講堂朝礼指導を堅持し、宗教作法を身につけさせる ②職員宗教研修を年2回実施し、教職員全員で宗教的情操教育を進める ③宗教委員に宗教行事の運営に参画させる ④4月に1年生の宿泊研修を実施し、東本願寺参拝を組み込み、東大谷高校のルーツを体得させる ⑤宗教科担当教員を増員し情操教育を徹底する ⑥同窓会と連携し、文化祭等で本校の歴史を実感させる展示を行う	①管理職による点検 ・長期休業後に提出される保護者意見 ・生徒肯定評価 85% ②職員肯定評価 100% ③参画実績 ④生徒感想文 ⑤採用実績 ⑥実施実績	①朝終礼の徹底を本校教育の原点として全教員で取り組んだ。学校教育自己診断(以下「自己診断」と表記)では保護者評価 92.9%に生徒評価 82.3%と目標に届かず。次年度1年生を中心に説明が必要(△) ②宗教研修実施は1回に留まり自己診断での教員肯定評価も 92.2%で目標に届かず(×) ③宗教委員を講堂朝礼運営当番に指名して実施(○) ④宗教行事ごとに感想文集「聞思」を発行し、生徒・教職員全員が振り返りを確認。感想文に「東本願寺参拝で厳粛な気持ちになった」「東大谷で宗教を通じて学ぶことがわかった」など多い(○) ⑤宗教担当教員を2名に増員(○) ⑥文化祭において「大谷の流れ」と題して展示を行い、多くの生徒が訪れ、卒業生と多くの本校性が交流した。(○)

<p>2 安心安全な学校づくり</p>	<p>(1)日常から安心安全に対する意識を持たせる (2)自律的生活習慣の確立 (3)マナー指導、しつけ教育の徹底</p>	<p>①防災マニュアル・危機管理マニュアルを見直す中で全教職員で再認識し、防災危機管理意識をさらに高める(教員の安全対策満足度 55.2%→70%) ②安全に対する意識の向上を図るため、防災避難訓練や薬物乱用・SNS 利用についての講演会の内容を充実させる(生徒の安全対策満足度 71.5%→80%) ③登下校指導、服装指導等、生活指導部を中心に全教職員で取り組む ④メンタルサポート体制の強化(生徒の悩み対応満足度 72.5%→80%) ⑤保護者に学校情報を伝えるために、家庭との緊密な連絡体制を持続し、ホームページの充実を図る(保護者の情報公開満足度 72.4%→80%) ⑥生徒主体に地域活動に積極的に参加する</p>	<p>①教員肯定評価 70% ②生徒肯定評価 80% ・生徒感想文 ③生徒肯定評価 95% ④生徒肯定評価 80% ⑤保護者肯定評価 80% ・長期休業後に提出される保護者意見 ⑥地域活動参加実績</p>	<p>①自己評価「安全対策」の教員評価は 55.2%→74.5%と大幅にアップ(○) ②本年度も防災避難訓練や講演会を実施し自己評価「安全対策」の生徒評価は 80.9%(○)。次年度さらに安心安全な学校をめざし、情報モラルの徹底を進める ③登下校指導に担任外教員を配置し近隣住民からも一定の評価を得る。自己診断「マナー」の生徒評価 93.1% 次年度は生徒の自主的な行動を促し評価 95%をめざす(△) ④教員間の連携・協力により生徒評価は 76.1%。次年度生徒評価 80%をめざす(△) ⑤ホームページの充実に遅れが出て自己診断「情報公開」保護者評価 71.8%(×) ⑥みはらまつり・清掃活動(風紀委員)・三原台こども園にて創作絵本の読み聞かせ・三原台文化祭に美術書道作品出品 地元からの評価高い。(○)</p>
<p>3 確かな人間力の育成</p>	<p>(1)「学びの NEW STYLE」の推進 (2)主体的な学習態度の育成 (3)リーダーシップの育成</p>	<p>①2020 年問題に向けて「10 年未来プロジェクト」「探究ゼミナール」等本校独自のアクティブラーニングと、教科でのアクティブラーニングの充実を図り、学ぶ意欲を育む(生徒の積極的に学ぶ習慣満足度 69.4%→80%) ②「2020 年問題」、「ICT 教育」についての各プロジェクトチームを立ち上げ、公開授業や研究授業を実施し、教育内容のレベルアップをめざす ③学習支援システムを導入し、生徒の自主学習能力を高める(生徒の自主学習満足度 69.5%→80%) ④進学希望生徒の増加に伴い、修学旅行等の学校行事の時期の見直しを行う ⑤生徒会活動・部活動のさらなる活性化・効率化を図る ⑥部活動では地域の小中学校との交流を通じてリーダーシップを育み競技に対する意識の変革をもたらす ⑦ボランティア活動を通じて地域社会に貢献する</p>	<p>①生徒肯定評価 80% ・「探究ゼミナール」プレゼンテーション生徒感想 ②各プロジェクトチームからの報告 ・活動状況 ・ICT 実践報告 ③生徒肯定評価 80% ④行事予定 ・クラスカンパニー実施数 ⑤部活動活動実績 ・生徒会活動実績 ・部活動生徒評価 80% ・行事生徒評価 90% ⑥活動実績 ⑦活動実績</p>	<p>①「10 年未来プロジェクト」が担任主導になり生徒評価 71.2%(△) ②「2020 年問題 PT」では「思考力を計る考査問題」をテーマに職員研修を 2 回実施、公開授業も実施した。「ICTPT」では「グーグルクラスルーム」を利用して効率的な学習活動のサポートが可能に。次年度はさらに教員のスキルアップをめざし研修を継続する。(○) ③学習支援ソフト「スタディサプリ」を導入し家庭学習のサポートをスタートした。成績不振者講習もスタディサプリを用いて行い、生徒感想の多くが「3 時間以上集中して勉強でき、よい経験になった」の評価で今後につながる講習となった。自己診断「積極的に学ぶ習慣」の生徒評価は 71.2%と生徒へのさらなる定着が必要である。(△) ④文化祭において、昨年に比べ 7 クラスに増加したクラスカンパニーのような生徒の自主的活動をより活性化しつつ、生徒会による運営の幅を拡大できるように支援する必要がある。(○) ⑤自己診断「顧問の熱意」生徒評価は 76.3%と微増、バトン部部門別全国 1 位、剣道部が個人戦で府ベスト 8 など実績も徐々にしている。(○) ⑥地元中学生のインターンシップを受け入れる他、バトン部・ダンス部等が地域の夏祭り・文化祭等に多数出演し、地域住民と交流。地元の三原台中学校区では、本校がウォークラリー会場として初めて参加。地域との絆を深めた。(○) ⑦生徒有志が泉ヶ丘クリーンキャンペーンに参加、また文化祭にて震災復興支援の物品販売に協力した。今後、参加人数の増加をめざす(△)</p>
<p>4 さらなる特色づくり</p>	<p>(1)大谷学園の強みを活かした教育力向上 (2)各コースでの特色をさらに充実させ本校の情報を積極的に発信</p>	<p>①大阪大谷大学との教員交流を推進し高大連携を強化し、本校教員の教育力向上を図る ②進学コースでは、新たに高大一貫教育システムとして薬剤師育成プログラムを学園本部・大学と連携し、策定・実施する ③国際コースでは、長期・短期留学制度を充実させるとともに、帰国生徒に 8 限授業(英語村)を実施し 4 技能の向上を図る ④特進コースにおいては、国公立 30 名、関関同立 100 名の進路希望を実現する ⑤入試説明会等において、本校の新たな取り組みだけでなく生徒の声を伝えることで、本校の魅力を受験生保護者に発信し、志願者・入学者の確保を図る</p>	<p>①管理職による点検 ②策定進捗状況 ③留学生数 20 名 ・資格試験実績 ④合格実績 ⑤説明会アンケート ・中学校や塾からの意見 ・志願者数 800 名 ・入学者数 300 名</p>	<p>①薬剤師育成プログラムの策定を通じ薬学部の教員との交流が深まり、相互理解が進んだ。(○) ②薬剤師育成プログラムは先行実施が順調に滑り出した。薬学部教授による特別講義を 3 回実施、1 年生参加者 13 名。(◎) ③今年度は 24 名が NZ 留学(昨年度 18 名)。国際コースの大きな特徴となった。さらに英検準 1 級合格者が 5 名と本校の最多合格者数となった。(○) ④センター試験受験者は 68 名と増加し、大阪大学合格者を出すも国公立大合格 5 名と目標実現の途上であり、課題は残る。来年度より 3 年間を見通した指導を行うため、「コース長」を新設し進路希望を実現する。(△) ⑤今年度は各コースから 1 人ずつの生徒を選び説明会で 5 分程度のスピーチを依頼した。アンケートでは「生徒の声を聞くことができて良かった」の回答が多数を占め、志願者が 883 名(昨年 806 名)、入学者が 357 名(昨年 309 名)と大幅増となった。(○)</p>